

LESSON 24

「重要だが緊急でない（第2象限）」に分類される未着手タスクのうち、放置するとプロジェクト全体に致命的な影響を与えかねないものを、影響度の高い順（優先度順）に示します。

これらのタスクは現在「未着手」であるため緊急を要しているようには見えませんが、先行する遅延タスクの影響を直接受けるため、事前の準備や調整を怠ると本番移行の失敗に直結します。

1. T018 帳票出力テスト

- 根拠: プロジェクトの最重要マイルストーンである「本番移行実施（T019）」の直接的な前提条件となっているためです。現在、先行タスクである「T010 既存帳票レイアウト確認」が担当者不在により52日も遅延しており、このテストは開始不可能な状態にあります。T010が完了した瞬間にテストを即座に開始できる体制を整えておかなければ、本番移行のスケジュール全体がさらに後ろ倒しになるという連鎖的なリスクを抱えています。

2. T019 本番移行実施

- 根拠: プロジェクトの最終目的そのものであり、絶対に失敗が許されないタスクだからです。このタスクを実施するためには、現在遅延している「T015 ユーザー受入試験（UAT）」と、上記で挙げた「T018 帳票出力テスト」の完了が必須となります。先行タスクの遅延によりスケジュールが圧迫されているため、移行手順の確認やリハーサルの見直しなど、着手可能な準備を前倒しで進めておかなければ、本番環境への切り替え時に致命的なトラブルを引き起こす可能性があります。

3. T023 ユーザー研修（第2回）

- 根拠: システムが本番移行された後、現場の業務が停止するリスクを回避するために不可欠なタスクです。先行する「T022 ユーザー研修（第1回）」がマニュアル未完成を理由に16日遅延しているため、第2回のスケジュールにも確実に影響が波及します。研修が不十分なままシステムが稼働すると、現場の混乱を招き、結果としてプロジェクトが「失敗」と評価される原因になります。

4. T020 移行後モニタリング（初週）および T021 旧システム停止手続き

- ・ 根拠: 本番稼働後の安定化と、旧システムのコスト削減に直結するタスクです。本番移行（T019）の遅延によってこれらのスケジュールも後ろ倒しになる可能性が高いですが、旧システム停止が遅れれば遅れるほど、新旧システムの並行稼働による不要な保守コストが発生し続けます。

これらのリスクをチーム全体や経営層に共有するために、現状のボトルネックと影響範囲をまとめたレポート（Tailored Report）を作成しましょうか？